

保護者のみなさまへ ～「令和7年度全国学力・学習状況調査及びすくすくウォッチ」の結果について～

河内長野市立長野小学校



《基本的な考え方》

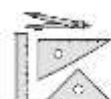
全国学力・学習状況調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況の把握・分析を行い、教育施策の成果と課題の検証及びその改善を図ること。また学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを通じて教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することを目的にしています。

また、すくすくウォッチは、子どもたちに各教科の学力に加え、ことばの力や文章、情報を読み取り考える力、様々な情報を活用する力、そして「見えない学力」と言われるねばり強さや好奇心などを育む、大阪府としての取り組みです。

これらをふまえて、本校では、次に挙げるような成果が期待されると考えております。

○子どもたちは、それぞれの学習の到達状況を知ること、学習意欲を高め、自ら目標を持って今後の学習の改善や励みになる。

○学校は、自校の状況をより詳細に分析することで、子どもたちの確かな学力及び教員の指導力・授業力の向上につながる。



《調査結果の取り扱い》

今年度は、全国学力・学習状況調査とすくすくウォッチの結果と分析を提供いたします。

◇本調査により測定できるのは、学力の限られた一部分であり、学校における教育活動の一つの側面です。すべての学力を捉えられているものではないことに十分留意して取り扱うことが必要です。

◇学校は、「子どもにどのような力がついてきたのか」「学校がどのような教育を進めているのか」「子どもの学習状況や生活習慣等にどのような良い点・課題があるのか」など、一人ひとりの学力向上の取り組みの改善とともに、学校における課題を整理して、課題改善する取り組みを進めていきます。

《お願い》

□学習への意欲は、子どもの自尊感情と大きな関係があります。友だちやきょうだいと比較することは、意欲を低下させる場合があります。今回の結果からお子様の伸びや課題を知り、まずはお子様の良いところを褒めてください。その上で、課題について頑張って克服できるよう励ましてあげてください。そのことがお子様の学習意欲を高めることにつながります。

□学力の向上は学校が主にその役割を担いますが、各家庭におかれましても、今回の結果を子どもたちの基本的な生活習慣の見直しや今後の家庭学習の進め方等の参考にさせていただきますようよろしくお願いします。

□調査結果のうち、正答率については、調査に参加した子ども並びに保護者の方にのみ提供しているものです。学校間の序列化や過度な競争につながらないよう、その取り扱いについては、十分にご留意いただきますようお願いいたします。



◎6 年

1. 学力調査の概要

[1]国語について

【概要】

全体の正答率は全国よりも上回っていた。特に、選択問題の正答率が高かった。その一方で、記述式の問題については、全国よりも正答率が低かった。

〈特に成果がみられた問題〉

2一【ちらし】の文章の構成の工夫を説明したものとして適切なものを選択する問題では、「小見出し」と「伝えたいことを中心」とを関連付けて正解を選ぶことができていた。3二【木村さんのメモ】の空欄に当てはまる内容として適切なものを選択する問題では、資料の要旨をつかみ適切な文を選ぶことができていた。3三(1)のように空欄にあてはまる内容として適切なものを選ぶ問題では、複数の資料を結び付け、必要な情報を見つけることができていた。

〈特に課題がみられた問題〉

1三(2)発言した理由として適切なものを選択する問題では、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることに課題がみられた。3三(2)の理由とともに考えを書く問題では、自分が納得したことについて、資料から必要な言葉や文を選べていなかった。

対策として言葉の意味を分かり適切に使えるように指導する。子どもの書くことに対する抵抗感は減ってきているので、条件を付けて書くことを今後もとりにくんでいきたい。

[2]算数について

【概要】

正答率は全国と比べると高い傾向にあった。選択式の問題については選択肢を参考にしっかりと考えることができていた。数や言葉を使って説明をするような、記述式の問題の正答率が低くなっていた。

〈特に成果がみられた問題〉

2(1)平行四辺形の作図の問題の正答率は、全国よりも高く、平行四辺形の性質を理解できており、対応する辺の長さやコンパスの針を置く場所など、作図の手順を理解できていた。2(2)台形を見つける問題でも、全国の平均を上回る結果になっている。1組の向かい合う平行の辺を見つけることができ、台形の性質を理解できている。

〈特に課題がみられた問題〉

3(3)数直線上に示された数を分数で書く問題では、1の目もりに着目し、分数を単位分数のいくつ分としてとらえることに課題がみられた。4(4)10%増量の意味を理解する問題では、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことに課題があった。

対策として、数量関係を明確にするために数直線や図を用いて数の概念を定着させていく。

[3]理科について

【概要】

全国よりも正答率が高く、無回答率も低かった。特に、「エネルギー」を柱とする領域については、正答率が高かった。記述式の問題については、正答率が全国よりもわずかに下回っていた。

〈特に成果がみられた問題〉

2(2)と2(3)の回路や電磁石のしくみについての問題では、正しい回路の作り方や電磁石の強さとコイルの巻き数の関係を理解できている。3(2)の顕微鏡の操作についての問題では、顕微鏡の基本的な操作を理解し、技能が身についている。

〈特に課題がみられた問題〉

2(4)の直列つなぎや並列つなぎに関する問題では、つなぎ方と電磁石の強さの関係が身についていない。3(4)レタスの発芽条件をもとに、新たな問題を見出し、表現する問題では、条件は選んでいるが疑問を示す趣旨で記述することができていなかった。

対策として、正しい実験方法を教えるだけでなく、間違っている方法の理由まで考えさせる。また、条件やその目的を理解して取り組ませていく。

2. すくすくウォッチの概要

[1]【わくわく問題】(教科横断的問題)について

観点
A 図や表,グラフ,短い文章,会話文等の内容を関連付けて,正しくとらえる。
B 図や表,グラフ,短い文章,会話文等の内容を関連付けて,それをもとに理論的に考える。
C 図や表,グラフ,短い文章,会話文等の内容を関連付けて,それをもとに新たな課題を考える。
D 図や表,グラフ,短い文章,会話文等の内容を関連付けて,それをもとに自分の考えをまとめ,伝える。
E 興味・関心のある事がらについて,意欲的に工夫して相手に伝える。

【概要】

「環境」「防災訓練」「ナッジ」を題材にして、上記のAからEの観点に基づいて出題された。特に「伝える」ことについての問題は、府平均と比べて正答率が高かった。記述式の問題についても、同様の結果が見られた。ただ、「読み取る」ことで問題を捉えることに関しては、課題が見られた。

〈特に成果がみられた問題〉

パルプ容器とプラスチック容器のどちらが良いかについての考えを記述する問題や、防災訓練の参加者を増やすための提案を資料から分かることを踏まえて記述する問題では、どちらも正答率が高かった。資料から読み取ったことをもとにして、自分の考えをまとめ記述することには、一定の成果が見られた。

〈特に課題がみられた問題〉

表に当てはまる分類名を、リーフレットを参考にして選ぶ問題や会話文を参考に図として正しいものを選ぶ問題では正答率が低かった。資料や会話文から必要な情報を正しく取り出して思考する力に課題がある。

3. 児童アンケートについて

〈特に成果がみられた質問〉

「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、わかるまで教えてくれます」の質問項目では、「あてはまる」と回答した児童が多かった。また、「ICTを活用して自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」「ICTを活用することにより、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」という質問項目に対し、肯定的に回答した児童の割合が全国を上回った。

これは、長野小学校で日々ICTを活用し、わかりやすい授業に向けて取り組んでいる結果であると考えられる。

〈特に課題がみられた質問〉

質問項目の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」や「授業で学んだことを次の学習や実生活に結び付けて考えたり、活かしたりすることができている」では、全国を下回る結果となった。また、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができているかに、「どちらかという当てはまらない」と答えた児童が多かった。

これらの傾向は昨年度も見られ、自分の考えや大事だと思ったことをノート等を書くことができるが、意見を比べたり考えを深めたり広げたりすることには課題が残る。今後、授業中において、自分の考えを深めたり、広げたりしている活動を実感させたい。

◎5年

1. すくすくウォッチの概要

[1]国語について

【概要】

文と文の意味のつながりを考え、適切な接続語を使う問題に関しては、大阪府の平均を上回った。しかし、文の意味を正しく捉え、適切な漢字を使って書くことに関する問題では、大阪府の平均を下回った。

〈特に成果がみられた問題〉

「一文を二文」にする問題では適切な接続詞を使い文章を作ることができており、正答率が大阪府の平均を上回っている。また、「相手や目的に応じて文を整える」問題に対しても、大阪府平均を上回った。これは、日頃より授業内で文章を書く習慣をとっている成果であるといえる。

〈特に課題がみられた問題〉

「日常でローマ字を正しく読む」などの知識技能の問題に関しては、大阪府の平均を下回っている。これは、ローマ字はタイピングで表すものと書いて表すものとの違いがあることや、日常でローマ字に触れる機会が少なくなっていることが影響していることが考えられる。「文の中における主語と述語の関係を捉えて文の内容を正しく理解する」問題では、大阪府平均を下回った。

[2]算数について

【概要】

資料を読み、活用する力を問われる問題が多かった。児童は情報量の少ない問題は答えを見つけられるが、複数の情報から選び、活用する問題には課題が見られた。

〈特に成果がみられた問題〉

「円の性質」に関する問題では大阪府の平均を上回っている。特に円の直径について理解できていた。直方体の展開図について考える問題の正答率は大阪府の平均を上回っている。これは、直方体を構成する要素と位置関係が理解できているということが考えられる。

〈特に課題がみられた問題〉

基準の数からどれだけ増えたかを割合を用いて説明する問題では、正答率が低かった。これは、テープ図を基に2つの数量関係を比較する力が弱いことが考えられる。

「グラフの読み取り」の問題に関しては、基礎となるグラフの読み取りはできていても、複数のグラフから情報を読み取ることが難しい。このことから、資料を読み取り、活用する力が不足していることが分かる。今後は、基礎知識や定義の定着を図るとともに、読み取った情報を整理し活用する力をつけていきたい。

[3]理科について

【概要】

「知識・技能」に関する問題、「思考・判断・表現」に関する問題、どちらの項目も大阪府平均を下回る結果となった。無回答率が大阪府より多く、特に記述式の問題の無回答率に関しては、本校では10%を超えていた。

〈特に成果がみられた問題〉

「空気を温めた時の体積の変化」の選択式の問題の正答率は、大阪府の平均を上回っていた。これは、授業で取り組んだ実験が知識として定着し、活かされていると考えられる。

「水の蒸発」についての短答式の問題は大阪府の正答率を上回っていた。これは、用語を正しく理解し、用いることができる児童が多いことが考えられる。

「火事で避難するとき取るべき姿勢を考える」という選択式の問題では、大阪府の平均正答率を上回っていた。これは、生活経験と学びをつなげることができていると考えられる。

〈特に課題がみられた問題〉

「気温を測るときの温度計の正しい使い方」の選択式問題では、正答率は低くなっていた。これは、実験器具の正しい使い方が定着していないことが考えられる。対策として、器具の正しい使い方を教えるだけでなく、間違っている方法の理由まで考えさせることが必要である。

「直列つなぎと並列つなぎ」の記述の問題の正答率は低く、無回答率が高かった。これは、回路の仕組みを理解していないか、問題文を理解していないことが考えられる。そのため、理科の専門用語を定着させることが必要である。また、実験をすることで印象付けさせ、回路ができれば電気が流れることをおさえる必要がある。

[4] 【わくわく問題】(教科横断的問題)について

観点
A 図や表,グラフ,短い文章,会話文等の内容を関連付けて,正しくとらえる。
B 図や表,グラフ,短い文章,会話文等の内容を関連付けて,それをもとに理論的に考える。
C 図や表,グラフ,短い文章,会話文等の内容を関連付けて,それをもとに新たな課題を考える。
D 図や表,グラフ,短い文章,会話文等の内容を関連付けて,それをもとに自分の考えをまとめ,伝える。
E 興味・関心のある事からについて,意欲的に工夫して相手に伝える。

【概要】

全体を見てみると、それぞれの小問題の(1)は正答率が大阪府と同等または高かった。しかし、小問題(2)(3)においては、大阪府を下回ることが多かった。特に複数のことを問われている問題の正答率が低い。

〈特に成果がみられた問題〉

図を見て判断する問題や、会話の読み取りの問題などの基礎的な問題においては、大阪府よりも高い正答率となっている。

〈特に課題がみられた問題〉

資料や会話を適切に読み取り内容を整理する問題では、正答率、準正答率ともに大阪府と比べると低くなっており、無回答率も高かった。そのため、何を問われているのかを理解するためには、読むだけでなく、条件や問われていることにアンダーラインを入れることで、印象付けたり整理したりする作業を取り入れていきたい。

複数の条件を入れて自分の考えを書く問題では、正答率が大阪府より低くなっている。複数の条件を満たす ということに課題がみられるため、自分の意見をまとめる際には書く分量を指定して、簡潔にまとめたり、必要に応じてテンプレートや書き出しや接続詞の指導もしたりしていきたい。

[5] 児童アンケートについて

〈特に成果がみられた質問〉

(1)「自分には、良い所がある」(2)「将来の夢や目標を持っている」(5)「難しいことがあってもあきらめない」(6)何事にも一生懸命努力する。(8)新しいアイデアや、計画を思いつくと、前のアイデアや計画から関心がなくなる。→ 自己肯定感が高く、前向きに取り組む数値は、大阪府を上回っている。これは、日頃から褒められる機会が多いことが結果として表れたと考えられる。

〈特に課題がみられた質問〉

「自分と違う考え方の人と話しているとき、その人がどうしてそのように考えているかをわかってもらう」「あなたの学級は、友だちの良い所を互いに認め合える」「わからないことや知りたいことがあったとき、本やインターネット等で調べている」の質問項目では、肯定的な回答が少なかった。今後も、認め合える学級づくりや、学習環境を整える努力を続けて取り組んでいく。また授業において、自力解決から協働的な深い学びにつなげられるように取り組んでいく。

◎調査結果を受けて

[1] 学校が重点的に取り組んでいくこと

今回のすくすくウォッチでは、記述式に課題が見られました。課題解決のためには、複数の資料や情報を正確に読み取り、条件に合わせて文章を書く力が必要です。本校では、「伝え合うことで自分の考えを深められる子の育成」を目指して授業に取り組んでいます。以下の5点を大切に引き続き、授業の中で、自分の考えを持ち、相手に伝え、さらに考えを広げたり深めたりすることによって、書き表せる力を育てていきます。

- ・資料や条件を読み取ったうえで、自分の考えをまとめたり伝え合ったりすることができる授業づくり
- ・言語活動や学び合いの中で、関わりながら高め合っていける授業づくり
- ・自学自習の手立てとなる、家庭学習の手引きの啓発
- ・効果的な指導のために、児童の長所と課題について、学校全体での共通理解
- ・1人1台端末等の情報機器を効果的に活用できる学習の充実

[2] 児童のみなさんに取り組んでほしいこと

○宿題以外にも復習をしましょう。

中学校に向けて計画を立てて勉強する習慣を身につけてほしいと思います。予習復習が学習のカギとなってくるので、出された宿題だけでなく、自学自習する習慣をつけましょう。

○得意なことを伸ばしましょう。

情報機器を効果的に正しく活用し、身の回りだけでなく広く社会の様々な情報を収集し、興味関心のあるものを見つけ、主体的に取り組むようにしましょう。

○基本的な生活習慣を身につけましょう。

食事や睡眠時間だけでなく、ゲームやパソコン、テレビ等を見る時間も自分で管理しましょう。

[3] 保護者のみなさまにご協力いただきたいこと

○宿題のサポート

内容が高度になってくる分、理解度が不十分で宿題に取り掛かっても、自力で最後まで解けない児童がいます。宿題のサポートをしてもらえると、子どもが自信をもって登校できるようになるのではないかと思います。

○学習習慣を定着

アンケートの結果から、家庭学習の時間が30分より少ない児童が平均的に少ない傾向でした。家庭学習の手引きを作成して配布しておりますので、参考にしていただき、一定の時間自ら考えすすんで学習することができるよう意識した声掛けや学習環境づくりをお願いします。家庭学習の習慣をサポートしてもらえると、中学校に向けて自分で学習するという習慣が身につきます。

○規則正しい生活習慣

規則正しい生活リズムにしてあげてください。特に 1 日 3 時間以上スマホ、パソコン、ゲームなどを使用している児童が多いことが気になります。使用時間におかれましても、ルールや約束の再確認をお願いします。

☆子どもたちが、これからの社会を生きる力を着実につけられるよう、学校も努めてまいりますので、ご家庭でも励ましの声をかけていただきますよう、よろしくお願いいたします。